

# クイズで知る！ JMC 個人情報漏えい事故の傾向

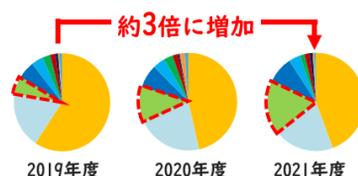
過去3年間に学校などで起きた個人情報漏えい事故について、クイズに挑戦して最新の傾向を確認しましょう。

## Q1

「①」に入る事故の種類はどれでしょう？

A.誤公開 B.不正アクセス C.誤送信

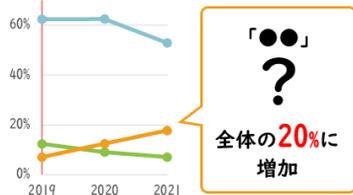
種類別 事故発生比率 TOP3



事故の種類	2019	2020	2021
1 紛失	59.3%	46.5%	44.3%
2 誤配布	18.6%	21.8%	20.0%
3 ①	5.8%	11.8%	17.8%

©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

漏えい経路・媒体別 事故発生比率 TOP3



経路・媒体	2019	2020	2021
書類	62.4%	62.5%	52.9%
USBメモリ	12.4%	9.1%	7.1%
②	7.1%	12.5%	17.8%

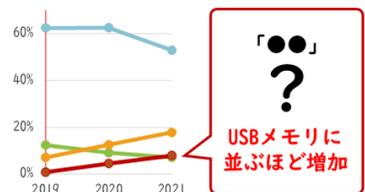
©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

## Q2

「②」に入る漏えい経路・媒体はどれでしょう？

A.パソコン B.電子メール C.携帯電話

漏えい経路・媒体別 事故発生比率の変化



経路・媒体	2019	2020	2021
書類	62.4%	62.5%	52.9%
USBメモリ	12.4%	9.1%	7.1%
電子メール	7.1%	12.5%	17.8%
③	0.8%	4.5%	7.9%

©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

## Q3

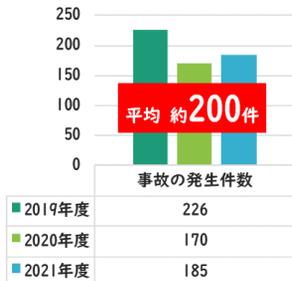
「③」に入る漏えい経路・媒体はどれでしょう？

A.携帯電話 B.パソコン  
C.インターネットサービス・アプリ

◀ 答え合わせは裏面へ

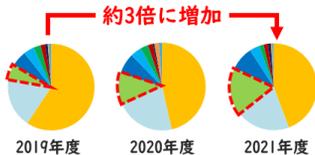
# 正解と解説

## 過去3年間に発生した 個人情報漏えい事故の発生件数



©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

## 種類別 事故発生比率



事故の種類	2019	2020	2021
1 紛失	59.3%	46.5%	44.3%
2 誤配布	18.6%	21.8%	20.0%
3 誤送信	5.8%	11.8%	17.8%

## Q1 C.誤送信

過去3年間に学校などで起きた個人情報漏えい事故の件数は、公開されているだけでも年間約200件に上ります。

「紛失」、「誤配布」、「誤送信」が全体の約80%を占めており、3年連続でTOP3となっています。

そのうち、「紛失」は2021年度にかけて減少傾向ですが、「誤送信」は約3倍に増加していることがわかりました。

## Q2 B.電子メール

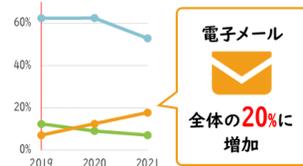
物理的な紙や記録媒体から、データで情報をやり取りすることが多くなった近年は、誤送信による個人情報漏えい事故が増加しています。



漏えい経路・媒体別の事故発生比率をみても、「電子メール」が「USBメモリ」を超え、全体の約20%を占めています。実際に2021年度は、「電子メール」を介して約13,000人の個人情報流出しました。

電子メールに、児童・生徒、学生の個人情報が記載された本来公開すべきでないファイルを添付し、誤送信した事故などが発生しています。

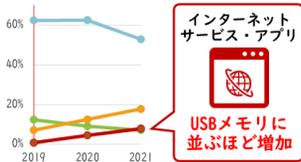
## 漏えい経路・媒体別 事故発生比率 TOP3



経路・媒体	2019	2020	2021
書類	62.4%	62.5%	52.9%
USBメモリ	12.4%	9.1%	7.1%
電子メール	7.1%	12.5%	17.8%

©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

## 漏えい経路・媒体別 事故発生比率の変化



経路・媒体	2019	2020	2021
書類	62.4%	62.5%	52.9%
USBメモリ	12.4%	9.1%	7.1%
電子メール	7.1%	12.5%	17.8%
インターネットサービス・アプリ	0.8%	4.5%	7.9%

©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

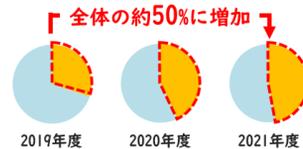
## Q3 C.インターネットサービス・アプリ

さらに、この3年間で急激に増えているのは、「インターネットサービス・アプリ」が漏えい経路・媒体となった事故です。2019年度時点ではTOP5に入っていなかった「インターネットサービス・アプリ」が、2020年度以降、4番目に多い漏えい経路・媒体になっています。

「インターネットサービス・アプリ」を介した事故では、「設定ミス」が最も多く、次いで「誤掲示」、「誤送信」が多く発生しています。

## 意図しない行為による 事故発生比率

「過失行為」や「やり間違い」など、意図しない行為を伴う事故が



年度	2019	2020	2021
全体	30.1%	42.9%	47.0%

©ISEN「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」調査報告書をもとに作成

こういったケアレスミスなどの意図しない行為による事故は、この3年間で全体の約50%に増加しています。インターネットやクラウド、さまざまな学習アプリなどで情報を公開・共有するようになった今日、最新の事故事例や傾向を知り、セキュリティ意識を向上させることが重要です。